



説教要旨「イエス様の友達宣言」



ヨハネによる福音書 15章 1～11節

イスラエルでは現在でも、ほとんどの人が瓶詰めミネラルウォーターを飲んでいますが、その地域の湧き水は、塩分やミネラル分が多く、だいたいそのままでは塩っぱくて不味くてとても飲めるような代物ではないからだそうです。昔のイスラエルでは、ミネラルウォーターなど気軽に買えませんでしたので、ぶどうの果汁を飲んでいました。それをそのまま飲むか、発酵させて飲むかの違いはありますが、とにかくぶどうの木から絞ったものを水の代わりに飲んでいました。ぶどうの木は、不味くて飲めない水を吸い上げて、甘くて飲みやすい美味しい水、しか生水を飲むより健康にいい水に変えてくれる、まさしく命の木だったわけです。イエス様はご自分のことを「まことのぶどうの木」と言いましたが、それはぶどうの木が苦い水を甘く飲める水に変えるように、わたしは人間のこの苦い世の中を、甘く、美味しく、良いものにするという宣言なのです。

ご自身をぶどうの木にたとえられたイエス様は、わたしたちのことをぶどうの枝にたとえられています。枝は、木が地中から吸い上げる養分を得て、果実を实らせます。枝だけでは果実は実りません。しかし、もし、枝が木にしっかりとつながっていれば、その枝は養分を与えられて当たり前のように実を結びます。イエス様としっかりと結びついてさえいれば、豊かに実を結ぶのです。実らせるのはわたしたちの力ではありません。イエス様が御言葉によって手入れしてくださり、ぶどうの実を实らせてくださるのです。その実りによって、この世の生きづらさを、少しでも生きやすいものにする、まずい水を少しでも飲みやすくする。そんな働きにあなたにも参加して欲しいと、イエス様は呼びかけておられます。

イエス様は、わたしたちを友と呼んでくださり、わたしたちのために命を捨ててくださいました。これ以上ない大きな愛を受けたわたしたちが、その大きな愛のほんのひとかけらでも隣の人と分かち合えたなら、この苦くて生きづらい世の中が、少しだけ生きやすくなるのではないのでしょうか。イエス様の友とされた喜びをもって、世へと歩み出すのです

(2022・5・15 説教者：稲垣真実)